

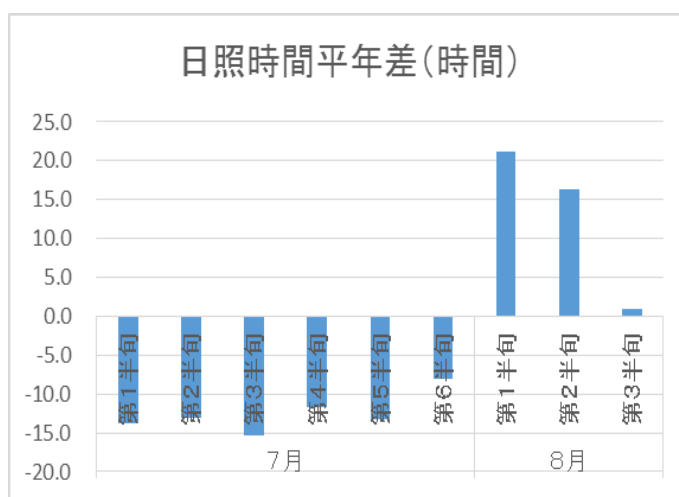
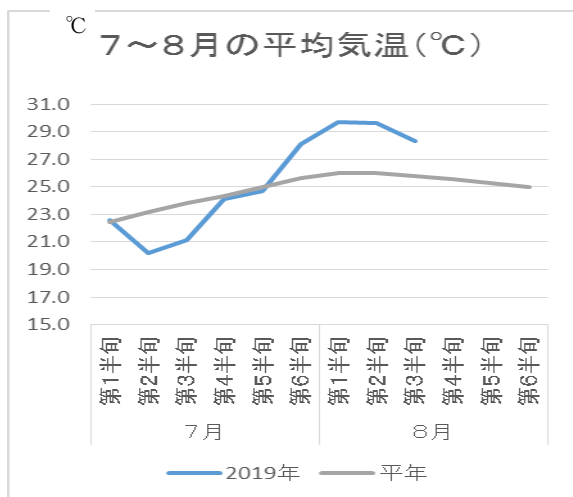
令和元(2019)年度水稻生育診断予測事業速報 No. 7 (出穂期から算出した刈取開始予想日)

令和元(2019)年 8月 20日
栃木県農政部経営技術課

- ◎早植の出穂期は、ほ場により5日早い～7日遅いまでバラツキが大きい。
- ◎ほ場で、帯緑色籾率を確認し、10%での収穫開始を徹底!
- ◎本年は割れ籾が発生しやすい気象条件なので、刈り遅れに注意。

1 気象概況

平均気温は、7月第2半旬(-3.0℃)、第3半旬(-2.7℃)は平年より低かった。の後第6半旬は平年より2.5℃高く、8月に入ってから第3半旬まで平年より3.2℃高く経過した。日照時間は7月は平年比48%と少なかった。8月は平年比156%と多く経過した。降水量は7月28日(37mm)、31日(14.5mm)、8月1日(55mm)、15日(14mm)にまとまった降雨があったが、7月以降の降水量は平年比83%であった。



2 調査結果

(表1 令和元年(2019)年度水稻生育診断ほ調査結果参照)

出穂期は、平年より5日早いほ場から7日遅いほ場が見られ、ほ場によるバラツキが大きい。平均では平年より1日早かった。

葉齢は、平年並で13.2葉で出穂を迎え、平年並であった。

葉色は、那須で0.6と濃いがその他の調査地点では淡く全平均で0.5淡かった。

3 技術対策

令和元(2019)年8月15日気象庁地球環境・海洋部発表の「関東甲信地方1か月予報」では、平年に比べ晴れの日が多く、向こう1か月の平均気温は高い確率が70%で日照時間は平年並又は多い確率がともに40%の見込みである。

① 水管理

登熟期間は水を必要とする時期なので、水が不足しないよう、こまめな間断かん水を行う。出穂後30日までは、間断かん水を続け、出穂30日以降も高温になる場合、かん水できるほ場は走り水を実施し、高温による品質低下に対応する。

また、7月が日照不足で経過しており、出穂後20日以降に高温になると割れ粃が発生する確率が高まるので、夕方から夜間のかん水により地温を低下させて、根の活力維持に努める。

② 適期収穫

早植コシヒカリの出穂期はバラツキがあるため、帯緑色粃率（不稔を除いた全粃に対する緑色粃の比率）を確認し、10%になったら収穫を開始できるよう、機械整備等の事前準備をしておく。

表2から、刈取開始予想は、県北部で9月第2半旬、県中部で9月第1半旬、県南部で8月第6半旬となっている（農業試験場データ）。しかし、今後の気温は高く推移することが予想されることから、成熟期はやや早まることも考えられる。また、登熟期間が高温で推移すると、葉や枝梗は緑色でも粃は刈取り適期を迎えている場合がある。刈り遅れを防ぐため、出穂後1か月を過ぎたら帯緑色粃率を確認し、刈り遅れに注意する。

※ 薬剤（登録農薬）はラベルの表示を確認して正しく使用する。

栃木県農業環境指導センターHP (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)

7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

夏の農作業で、以下のことに気をつけましょう。



- ・日中の気温の高い時間帯の作業は控えましょう。
- ・こまめな休息、水分補給を行いましょ。
- ・体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょ。